

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [株式分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 資本市場の仕組みと株式投資</b>			
	資本市場における主要な投資対象資産（株式、債券、デリバティブ、投資信託等）の基本的な仕組みを理解する。	○	
	株式会社の基本原理と金融・資本市場における株式の機能を理解する。	○	
	株式の種類（普通株、優先株、種類株等）とその特徴（持ち分、配当、議決権、株式の財産請求権等）について理解する。	○	
	株式の簿価と時価、株式リターン（配当収益と値上がり益）とそのリスクについて理解する。	○	
	株式の公開（上場）と株式市場（私設市場を含む）の仕組みを理解する。	○	
	国内外の主要な株価指数の概要（種類とユニバース）、指数算出方法（時価総額加重方式と株価平均方式）について理解する。	○	
	株式の発行・流通に関わる機関や参加者（証券会社、証券取引所、銀行・保険会社などの機関投資家）の種類と役割を理解する。	○	
	株式取引の基礎（現物取引、信用取引）を理解する。	○	
	株式売買（執行）の手法（約定・受渡と清算）と発注方法（指値注文と成行注文）について理解する。	○	
	株式発行市場と株式流通市場の仕組みや相互の関連性を理解する。	○	
	株式市場における価格形成の仕組み（オーダードリブン方式とクォートドリブン（マーケットメイキング）方式を理解する。	○	
	日本の株式市場・株式取引に関する関連法令（金融商品取引法、会社法および関連法令）と自主規制ルールの概要を理解する。	○	
	主要国の株式市場や制度に関する基礎的な知識について理解する。	○	
<b>(2) 株式投資と企業のファンダメンタル分析</b>			
	産業分析と企業分析の関連について理解する。	○	
	トップダウン分析とボトムアップ分析について理解する。	○	
	景気循環と企業業績や株式セクターとの関連について理解する。	○	
	企業の産業分類、産業分析（セクター分析）について理解する。	○	
	産業の戦略的分析について理解する。	○	
	ライフサイクル・モデルに基づく産業分析手法を理解する。	○	
	産業の成長、収益性、リスクに対するマクロ経済的要因などの影響を理解する。	○	
	企業の競争力や優位性に関する主要な分析方法について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [株式分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	企業価値評価と株式価値評価の違いについて理解する。	○	
	企業分析において検討すべき基礎的要因、ゴーイング・コンサーン原則と企業価値について理解する。	○	
	利益予想の利用と株式価値評価の関係について理解する。	○	
	非財務情報（ESG要因）と株式価値の関係について理解する。	○	
	企業と投資家の対話（エンゲージメント）について理解する。	○	
<b>(3) 株式価値評価モデルの基礎</b>			
	株式評価モデルによる価値評価と株価（市場価格）の比較・判断について理解する。	○	
	配当割引モデル（DDM）の概要を理解する。	○	
	株式の資本コストとROE、株主の要求収益率について理解する。	○	
	サステイナブル成長率の概念とその前提を理解する。	○	
	株式評価モデルの前提となる配当およびペイアウト政策と株価の関係について理解する。	○	
	様々なDDM（ゴードン・モデル、多段階成長モデル）に基づく株式評価手法について理解する。	○	
	定率成長モデル（ゴードン・モデル）におけるインプライド配当成長率の算出方法や各種変数との関係について理解する。	○	
	成長機会現在価値（PVGO）の算出方法や各種変数による影響について理解する。	○	
	キャッシュフロー割引モデルの概念と配当割引モデル（DDM）、フリー・キャッシュフロー（FCFE）割引モデルの仕組みを理解する。	○	
	残余利益を決定する基本要因や残余利益モデルによる株式評価の手法を理解する。	○	
	残余利益モデルとPBRの関係について理解する。	○	
	残余利益モデルとDDM、FCFE割引モデルの相互関係について理解する。	○	
	株式評価モデルにおける予測値としての配当、FCF、残余利益のそれぞれの相違や留意点を理解する。	○	
	株価評価指標に基づく株価の割高・割安判断の手法を理解する。	○	
	PER、PCFR、PSR、PBR等の株価評価倍率（マルチプル）の意義や特性、利用上の留意点を理解する。	○	
	企業価値評価倍率（企業価値EBITDA倍率）の意義やそれに基づく株価評価手法を理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [株式分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	貸借対照表に基づく株価評価手法と利用上の留意点を理解する。	○	
	類似比較法に基づく株価評価手法について理解する。	○	
<b>(4) 株式価値評価モデルの活用</b>			
	配当割引モデル (DDM) から導かれる要求収益率の算出方法について理解する。		○
	ターミナル・バリューの概念とDDMにおける利用方法について理解する。		○
	サステイナブル成長率と財務指標の関連性について理解する。		○
	デュポン・システム (デュポン分解) によるサステイナブル成長率の推計方法について理解する。		○
	DDMに基づく株価の割高・割安判断の手法を理解する。		○
	株価評価におけるFCFFとFCFEの意義と算出方法について理解する。		○
	FCFF・FCFEと企業利益、資本政策との関係、FCFF・FCFEの予測方法について理解する。		○
	割引キャッシュフロー (DCF) 法とDDMの関連性について理解する。		○
	適切なDCF法に基づく株式価値評価手法を理解する。		○
	残余利益のインプライド成長率の算出方法を理解する。		○
	残余利益モデルを適用する前提について理解する。		○
	残余利益モデルに基づく株価の割高・割安判断の手法を理解する。		○
<b>(5) 株式リターンの分析と株式ポートフォリオによる投資戦略</b>			
	株式の所有期間リターン、株主の要求収益率、割引率、内部収益率について理解する。		○
	株式リスクプレミアムの推定手法について理解する。		○
	CAPMやマルチファクター・モデルを利用した個別株式リスクプレミアムの推定方法を理解する。		○
	上場株式や非公開株のベータ推計方法について理解する。		○
	キャッシュフローに対する割引率の適切な選択手法について理解する。		○
	投資政策や市場特性 (効率性) と最適な株式運用戦略の関連を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [株式分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	株式ポートフォリオ戦略（パッシブ運用、アクティブ運用など）の意義や特徴を理解する。		○
	様々な株価指数（ファンダメンタル・インデックスなども含む）の特徴と株式パッシブファンドの構築方法について理解する。		○
	株式のアクティブ運用における投資意思決定プロセスについて理解する。		○
	株式ポートフォリオにおけるファクター投資手法や様々なファクター・モデルの活用方法、スマートベータ戦略について理解する。		○
	株式の投資スタイルの分類やスタイル分析の利用方法について理解する。		○
	アクティブ運用の基本法則とアクティブ運用の付加価値の測定方法について理解する。		○
	エンハンスト・インデックス戦略、ロング・ショート戦略、マーケット・ニュートラル戦略、ポータブル・アルファ戦略などの仕組みや特性について理解する。		○
	ESG要因（社会的責任投資など）に基づく株式ポートフォリオ戦略について理解する。		○
	株式マネジャーの選択プロセスやトータル・アクティブ・リターン の把握、スタイル管理手法について理解する。		○
<b>(6) ポートフォリオにおけるトレーディングと最良執行</b>			
	市場取引の構造の相違や特性の評価基準・評価手法について理解する。		○
	成行注文と指値注文の内容や特性について理解する。		○
	トレーダーの類型（取引動機、時間選好と価格選好など）について理解する。		○
	主要なトレーディング手法のコストや特性、最適な手法の選択方法を理解する。		○
	HFT(高頻度取引)とアルゴリズム取引の概要や特性、選択決定要因（日々の出来高、ビッド・アスク・スプレッドなど）について理解する。		○
	市場価格の形成におけるアルゴリズム取引やHFTの影響を理解する。		○
	執行コストの構成要素（明示的成本と潜在的コスト等）や流動性指標について理解する。		○
	インプリメンテーション・ショートフォール法（IS法）による取引コストの分析手法について理解する。		○
	VWAP（出来高加重平均価格）法による取引コストの分析手法について理解する。		○
	気配スプレッド、実効スプレッドについて理解する。		○
	潜在的取引コストの推計方法を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [株式分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	最良執行基準の意味や運営体制構築について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [債券分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 債券の種類・特性と債券市場の仕組み</b>			
	債券の基本概念、他の金融商品との違い、収益とリスクを理解する。	○	
	割引債の仕組み（キャッシュフローと利回り）を理解する。	○	
	固定利付債の仕組み（キャッシュフローと利回り）を理解する。	○	
	主要な債券の種別や分類について理解する。	○	
	主要な債券市場指数について概要を理解する。	○	
	日本の債券発行市場の仕組みについて理解する。	○	
	日本の債券流通市場の仕組みについて理解する。	○	
	日本の債券市場を構成する各機関それぞれの機能について理解する。	○	
	グローバル債券市場の基礎知識について理解する。	○	
	債券レポ取引など補完市場の仕組みを理解する。	○	
<b>(2) 金利と債券価格評価</b>			
	市場の割引率に基づく債券価格算出の仕組みを理解する。	○	
	債券のリターン源泉（クーポンと価格変動）について理解する。	○	
	債券の価格とクーポンレート、残存期間、最終利回りの関係を理解する。	○	
	スポットレートによる債券価格の算出方法を理解する。	○	
	スポットレートとフォワードレートの関係、債券価格との関係を理解する。	○	
	経過利息や債券価格（利含み）を理解する。	○	
	債券間の金利裁定と債券価格評価の意味を理解する。	○	
	変動利付債の仕組みと価格評価手法、リスク・リターンの特性を理解する。		○
	インフレ連動債の仕組みと価格評価手法、リスク・リターンの特性を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [債券分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(3) 金利の理論、期間構造とスプレッド</b>			
	スポットレート、パーレート（パーイールド）、フォワードレートによる利回り曲線とそれらの関係性を理解する。	○	
	ブートストラップ法によるスポットレート推定法を理解する。	○	
	伝統的な期間構造理論（純粋期待仮説、流動性プレミアム仮説、市場分断仮説）と利回り曲線との関連を理解する。	○	
	スワップレート・カーブとその利用方法について理解する。	○	
	債券のスプレッド（Zスプレッド、ASW（アセットスワップ）スプレッド、OASなど）の計算と利用法を理解する。		○
<b>(4) 債券のリターンと金利リスクの分析</b>			
	債券の残存期間、クーポン、利回り水準と金利リスクの関係を理解する。	○	
	マコーレー・デュレーション、修正デュレーションについて理解する。	○	
	実効デュレーションについて理解する。	○	
	コンベクシティの概念や算出方法を理解する。	○	
	デュレーションとコンベクシティによる金利変化と価格変化率の関係を理解する。	○	
	債券ポートフォリオの金利変化による価額変化を理解する。	○	
	将来の金利シナリオと所有期間利回りの関係を理解する。	○	
	債券の投資期間、所有期間利回り、デュレーションの関係を理解する。	○	
	ファクター・モデルによる利回り曲線（イールドカーブ）の形状分析とリスク管理について理解する。		○
<b>(5) 金利変動モデルに基づく債券価格評価</b>			
	二項モデルと経路依存キャッシュフローに基づく債券価格評価法やカリブレーション法について理解する。		○
	確率過程による金利変動モデルの仕組み、イールドカーブの導出と利用法を理解する。		○
	金利ボラティリティの期間構造と債券の金利リスクへの影響について理解する。		○
	モンテカルロシミュレーションによる債券価格評価の仕組みを理解する。		○
	イールドカーブの形状を決定するパラメータに対するエクスポージャーの測定や管理方法を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [債券分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	キーレート・デュレーションとそのイールドカーブ変化に関するリスク計測について理解する。		○
<b>(6) オプション内蔵型債券の仕組みと評価</b>			
	期限前償還条項付債券（コーラブル債とプッタブル債）の仕組みと、発行体・投資家にとってのメリットとデメリットを理解する。		○
	コーラブル債、プッタブル債の実効デュレーションを用いたリスク管理の方法と、金利ツリー（二項モデル）を用いた価格評価の手法を理解する。		○
	金利のボラティリティやイールドカーブの形状がコーラブル債、プッタブル債の価格に与える影響を理解する。		○
	OAS（オプション調整後スプレッド）の算出手法、金利のボラティリティから受ける影響を理解する。		○
	オプション内蔵型債券の金利感応度を示す指標（実効デュレーション、実効コンベクシティ、キーレート・デュレーション）の算出と、その利用方法を理解する。		○
	新株予約権付社債（転換社債）の特性や価格の評価方法、リスク・リターン特性を理解する。		○
	キャップ付き・フロア付き変動利付債の仕組みと、価格評価の手法を理解する。		○
<b>(7) 社債投資と信用リスクの分析</b>			
	社債の種類や社債投資における信用リスクの性質、信用スプレッドを理解する。	○	
	信用スプレッドや流動性と利回りの関係、価格変化への影響を理解する。	○	
	利回りスプレッドの水準やその変動に影響する要因を理解する。	○	
	信用リスク量の計測における基本的な要素および手法について理解する。	○	
	社債の弁済順位と変更の可能性について理解する。	○	
	信用格付の仕組み、発行体格付と銘柄格付、その利点と限界について理解する。	○	
	債券発行者の財務指標に基づく発行体や債券のクレジット分析方法を理解する。	○	
	信用スコアリング・モデルと信用格付（ランク）の関係を理解する。		○
	信用リスクの構造型モデルの仕組み、特徴と利用方法を理解する。		○
	信用リスクの誘導型モデルの仕組み、特徴と利用方法を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [債券分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	信用スプレッドの期間構造の決定要因を理解する。		○
	信用リスクによる債券ポートフォリオの予想損失と予想外損失の算出方法と解釈方法を理解する。		○
<b>(8) 証券化商品の仕組みと評価</b>			
	資産や債権に基づく証券化の仕組みおよび証券化による利点を理解する。	○	
	証券化のスキームと関係機関の役割・関連法制を理解する。	○	
	証券化商品の概要や市場について理解する。	○	
	証券化の典型的な構造、期間や信用度による階層化を理解する。		○
	モーゲージ証券 (RMBS、CMBS) の仕組み、キャッシュフローとそのリスクを理解する。		○
	パススルー証券やCMOの仕組みとリスク特性を理解する。		○
	MBSの期限前償還リスクについて理解する。		○
	ABSの仕組みとリスク特性について理解する。		○
	証券化商品におけるクレジット分析の特徴について、企業の信用リスク分析との比較を踏まえて理解する。		○
<b>(9) 債券ポートフォリオによる投資戦略</b>			
	利回り曲線の変化が債券ポートフォリオの価額に与える影響の概要を理解する。	○	
	ポートフォリオにおける債券の役割、投資手法の分類とそれぞれの目的・特徴を理解する。	○	
	ポートフォリオ・デュレーションによるリスク管理とその留意点について理解する。	○	
	債券運用に利用される指数の特性や選定基準、債券インデックス・ファンドやラダー型ポートフォリオのリスク・リターン特性、構築手法を理解する。		○
	債券のアクティブ運用におけるフォワードレートや金利見通しに基づいた債券ポートフォリオのポジション調整の方法を理解する。		○
	債券投資から得られる収益の源泉 (キャリーとロールダウン) について理解する。		○
	イールドカーブ戦略 (利回り曲線の様々な変化に対応した債券ポートフォリオ戦略) の代表的な手法とリスク・リターン特性を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [債券分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	キーレート・デュレーションの債券ポートフォリオの金利感応度分析への適用手法を理解する。		○
	ファクター・モデルを利用した債券ポートフォリオ戦略の代表的な手法を理解する。		○
	債券ポートフォリオにおけるレバレッジの利用手法とその効果を理解する。		○
	投資適格社債とハイイールド社債の債券ポートフォリオのリスク特性、証券化商品の利用方法について理解する。		○
	債券ポートフォリオにおけるクレジット戦略の分析手法やリスク管理方法、クレジット・スプレッドの利用手法について理解する。		○
	広範な債券総合指数をベンチマークとするグローバル債券ポートフォリオの構築・運用手法を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [デリバティブ分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) デリバティブの種類と機能</b>			
	デリバティブの一般的な定義・原理と意義を理解する。	○	
	上場デリバティブ商品と店頭デリバティブ商品の種類と特徴を理解する。	○	
	先渡や先物、オプション(コールとプット)、スワップ、クレジット・デリバティブの概要と特徴を理解する。	○	
	裁定取引の意義とデリバティブの価格形成との関連について理解する。	○	
	プライシングとバリュエーションとの違いを理解する。	○	
	株価指数先物取引の概要について理解する。	○	
	国債先物取引の概要について理解する。	○	
	株価指数オプション取引の概要について理解する。	○	
	国債先物オプション取引の概要について理解する。	○	
	デリバティブ市場の概要について理解する。	○	
	その他のデリバティブ商品（金利・通貨デリバティブ、商品（コモディティ）先物等）の概要について理解する。	○	
<b>(2) 先物・先渡取引の仕組みと評価</b>			
	先渡取引、先物取引の仕組みと特徴、相違点（仕組みや価格形成）を理解する。	○	
	先渡および先物取引の価格決定の仕組み（無裁定条件）について理解する。	○	
	先渡および先物の価値と市場価格、裁定取引について理解する。	○	
	原資産保有の便益・費用と先渡価格の関係について理解する。	○	
	商品（コモディティ）先物価格の決定とコンビニエンス・イールド、コンタンゴ等について理解する。	○	
<b>(3) オプション取引の仕組みと評価</b>			
	オプション取引の仕組みや種類について理解する。	○	
	オプション（コールとプット）の満期時における価値（損益）について理解する。	○	
	オプションの本源的価値と時間価値について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [デリバティブ分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	オプション価値の上限・下限と決定要因について理解する。	○	
	プット・コール・パリティについて理解する。	○	
	2期間二項モデルによるリスク中立確率やオプション価格決定の仕組みを理解する。	○	
	アメリカン・オプションとヨーロピアン・オプションの価格相違について理解する。	○	
	オプション価格による裁定取引と裁定利益の算出方法を理解する。	○	
	状態価格やリスク中立確率の概念とオプション価値評価の関連性について理解する。		○
	多期間二項モデルに基づいたヨーロピアン・オプションの価値評価について理解する。		○
	多期間二項モデルに基づいたアメリカン・オプションの価値評価について理解する。		○
	ブラック＝ショールズ・モデルの概要について理解する。		○
	ブラック＝ショールズ・モデルによるヨーロピアン・オプションの価値算出方法を理解する。		○
	ブラック＝ショールズ・モデルの感応度指標（デルタ、ガンマ、セータ、ロー、ベガ）について理解する。		○
	オプションにおけるデルタと複製ポートフォリオの構築方法について理解する。		○
	インプライド・ボラティリティの意義と利用方法について理解する。		○
	エキゾチック・オプションの主な種類と特徴について理解する。		○
	モンテカルロシミュレーションや複雑な格子法を利用したオプション評価手法を理解する。		○

#### (4) 金利・通貨を対象としたデリバティブ

	債券先物取引の仕組みと価格形成について理解する。	○	
	金利先物取引の仕組みと価格形成について理解する。	○	
	金利先渡契約（FRA）の仕組みと利用方法について理解する。	○	
	2期間二項モデルによる金利オプションの評価手法を理解する。	○	
	金利スワップ取引の仕組みと利用方法について理解する。	○	
	通貨スワップ取引の仕組みと利用方法について理解する。	○	
	金利スワップによる変動金利と固定金利の交換手法について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [デリバティブ分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	金利スワップ契約の価値を金利先渡契約との関係から理解する。		○
	スワップのプライシングとバリュエーションについて理解する。		○
	通貨スワップを利用した債務やキャッシュフローの管理方法について理解する。		○
	通貨スワップの価値評価方法について理解する。		○
	金利キャップ、フロア、カラーの仕組みと価格評価、利用方法について理解する。		○
	スワップションの仕組みと価格評価、利用方法について理解する。		○
	債券先物オプション取引の仕組みと価格形成について理解する。		○
	通貨オプション取引の仕組みと価格形成について理解する。		○
<b>(5) クレジット・デリバティブ</b>			
	CDS（クレジット・デフォルト・スワップ）の仕組みや種類、パラメータを理解する。		○
	CDSの市場価格評価の仕組みや決定要因を理解する。		○
	CDSを用いた信用リスク管理について理解する。		○
	CDSを用いた投資戦略について理解する。		○
<b>(6) デリバティブを用いた投資戦略</b>			
	先物（先渡）取引を用いたポートフォリオのヘッジ手法について理解する。	○	
	デリバティブによる現物資産の複製について理解する。	○	
	カバード・コール戦略の仕組みや利用方法と損益特性について理解する。	○	
	プロテクティブ・プット戦略の仕組みや利用方法と損益特性について理解する。	○	
	ブルスプレッド、ベアスプレッドの仕組みや利用方法と損益特性について理解する。	○	
	ストラドル、ストラングル、バタフライの仕組みや利用方法と損益特性について理解する。	○	
	カレンダー・スプレッド取引の仕組みや利用方法について理解する。	○	
	投資目的に即したデリバティブ戦略の適切な選択手法について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [デリバティブ分析]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	オプション・トレーディングにおけるデルタ・ヘッジ、ガンマ・ヘッジの手法について理解する。		○
	金利スワップを利用した債券ポートフォリオ・デュレーションの調整方法について理解する。		○
	指数先物取引を用いたポートフォリオの最小分散ヘッジなど、ヘッジ・ポジションの構築手法について理解する。		○
	株価指数先物と債券先物を利用した株式・債券ポートフォリオの資産配分調整方法について理解する。		○
	指数オプション取引を用いたポートフォリオのヘッジ・ポジション構築（プロテクティブ・プット戦略）とリスク管理手法を理解する。		○
	現物と指数先物を利用したポートフォリオ・インシュアランスの原理とポジション構築方法（ダイナミック・ヘッジング）について理解する。		○
	債券先物取引を用いた債券ポートフォリオのヘッジ手法と裁定取引を理解する。		○
	アセットスワップによる合成債券の組成方法について理解する。		○
	デリバティブのアービトラージ（裁定取引）戦略について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 現代ポートフォリオ理論</b>			
	投資のリターンと割引現在価値について理解する。	○	
	投資のリターンの源泉（インカムゲインとキャピタルゲイン）について理解する。	○	
	投資家の効用関数について理解する。	○	
	期待効用最大化原理について理解する。	○	
	投資家のリスク回避度（およびリスク許容度）について理解する。	○	
	平均・分散アプローチと効用関数の関係について理解する。	○	
	ポートフォリオ・リターンの期待値とその分散（および標準偏差）について理解する。	○	
	資産間の相関とポートフォリオのリスク削減効果の関係を理解する。	○	
	実績データに基づくリターンの平均、分散、相関係数の算出方法を理解する。	○	
	最小分散ポートフォリオと効率的フロンティアについて理解する。	○	
	投資家のリスク回避度と最適ポートフォリオの決定方法について理解する。	○	
	リスク資産と安全資産の組み合わせによるポートフォリオ構築手法と分離定理を理解する。	○	
	資本資産評価モデル（CAPM）の概要と市場ポートフォリオについて理解する。	○	
	市場ポートフォリオの意義と効率性について理解する。	○	
	資本市場線（CML）の概念と内容を理解する。	○	
	証券市場線（SML）の概念と内容を理解する。	○	
	市場リスクと非市場リスクの概念と期待リターンとの関係を理解する。	○	
	マーケット・モデル（市場モデル）の概要を理解する。	○	
	ベータの意味と推定方法について理解する。	○	
	CAPMに基づく期待リターンの算出方法を理解する。	○	
	市場の効率性の概念とアノマリーについて理解する。	○	
	ウィーク型、セミストロング型、ストロング型の効率性の定義と意味について理解する。	○	
	CAPMと市場価格の形成、アノマリーの存在について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	シャープ・レシオ、トレーナー・レシオ、ジェンセンのアルファの算出方法とその解釈を理解する。	○	
	マルチファクター・モデルの仕組みと概念（ファクターとエクスポージャー）、利用方法について理解する。	○	
	裁定価格理論（APT）の概要について理解する。	○	
	株式マルチファクター・モデル（ファーマ=フレンチの3ファクター・モデル、マクロ経済ファクター・モデル）の仕組みと概要を理解する。	○	
	アクティブ・リスクとトラッキングエラー、インフォメーション・レシオ（IR）について理解する。		○
	ファーマ=フレンチの3ファクター・モデル、カーハートの4ファクター・モデル等に基づくポートフォリオのリスク管理方法を理解する。		○
<b>(2) 投資政策とアセット・アロケーション</b>			
	.	○	
	投資政策の概要とポートフォリオ・マネジメント・プロセス（リスク許容度等に基づくリスク・リターンの設定）について理解する。	○	
	投資政策におけるベンチマークや市場指数の役割、種類、利用方法と投資政策書（IPS）の策定項目について理解する。	○	
	投資政策に影響する制約要因（流動性、投資期間、税制等）を理解する。	○	
	投資政策に基づくポリシー・アセットミックスの策定プロセスについて理解する。	○	
	資産クラスの種類やその期待リターン・リスクの推計方法の概要について理解する。	○	
	資産配分の決定方法、リバランスの意義とその具体的な方法について理解する。	○	
	アセット・アロケーションの意義と重要性、制約要因（流動性確保、投資期間、法令・規則等）について理解する。		○
	アセット・アロケーションにおける主要な資産クラスのリターン・リスク特性について理解する。		○
	確定給付企業年金（DB）の投資政策策定と運用制約について理解する。		○
	負債の評価と負債に基づくアセット・アロケーション、LDI戦略の概念と方法について理解する。		○
	アセット・アロケーション策定プロセスにおけるモンテカルロシミュレーションやシナリオ分析手法について理解する。		○
	市場環境のモニタリングと、その変化に即した投資政策書やポリシー・アセットミックスの修正方法について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	平均・分散アプローチによるアセット・アロケーション手法とその課題や解決法（Black=Littermanモデルやリサンプリング法など）について理解する。		○
	アセット・アロケーションとシステムティック・リスク・エクスポージャー管理について理解する。		○
	リスクに基づく資産配分手法（リスク・パリティ、最小分散法など）の概念と利用について理解する。		○
	リスク・ファクターに基づく資産配分手法の概念と利用について理解する。		○
	ポリシー・アセットミックスのリバランスの意義・留意点について理解する。		○
	リバランスの概念と手法（定期リバランスと乖離幅リバランス、許容乖離幅、リバランス目標など）の内容や特性について理解する。		○
	タクティカル・アセットアロケーションの概要と代表的手法について理解する。		○
	ダイナミック・アセットアロケーション（オプション型ポートフォリオ・インシュランス、CPPI）の仕組みとアセット・アロケーション戦略（コンスタント・ミックス、バイアンドホールド、PI）によるリスク特性（線型戦略、凸戦略、凹戦略）について理解する。		○
	マネジャー・ストラクチャーの基本概念・理論と実務上の留意点について理解する。		○
	アセット・アロケーションの運営手法（パッシブとアクティブ）について理解する。		○
<b>(3) ポートフォリオの構築とリスク管理</b>			
	ポートフォリオ・リスク管理の意義、基本プロセスや留意点について理解する。		○
	リスク・エクスポージャーの測定と管理方法を理解する。		○
	投資家のリスク許容度とリスク管理との関連を理解する。		○
	投資管理におけるベンチマークと市場インデックスの利用方法について理解する。		○
	リスク・バジューティングの基本概念、理論と実務上の留意点について理解する。		○
	パッシブ運用とアクティブ運用の特徴と投資管理プロセスへの適用について理解する。		○
	インフォメーション・レシオを利用したマネジャー選択とポートフォリオのアクティブ・リスク管理について理解する。		○
	バリュー・アット・リスク（VaR）によるポートフォリオのリスクの測定手法や解釈、長所・短所について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	VaRの推定方法（パラメトリック法、ヒストリカル法、モンテカルロ法）の特性や利用方法について理解する。		○
	テールバリュー・アット・リスク、CFaR、EaRについて理解する。		○
	ポートフォリオ・リスクの様々な定量分析手法（感応度分析等）について理解する。		○
	ストレス・テスト、感応度リスク分析、シナリオリスク分析の手法と特性について理解する。		○
	クレジットリスクの基本的な概念と評価・管理手法について理解する。		○

#### (4) 機関投資家の資産運用

	機関投資家の意義と特性を理解する。	○	
	投資信託などの合同運用の仕組みと概要を理解する。	○	
	機関投資家におけるポートフォリオ運用プロセスの概要を理解する。	○	
	日本の年金制度の概要と各制度の特徴、資産運用リスクの負担について理解する。	○	
	確定給付型の年金資産の投資目的と運用の特性・要因を理解する。	○	
	機関投資家におけるESG投資の意義について理解する。	○	
	機関投資家とスチュワードシップ・コードの役割について理解する。	○	
	年金基金のリスク許容度の決定要因（サープラスの水準、母体企業の財務状況と収益性、リスクの種類と特性）を理解する。		○
	確定給付企業年金（DB）の投資政策の内容や策定方法、リスク管理について理解する。		○
	ハイブリッド年金制度の仕組みや特性について理解する。		○
	金融機関、生命保険会社の投資目的や資産運用などの制約・特徴などについて理解する。		○
	年金基金、金融機関、保険会社などのリスク管理手法やALM手法について理解する。		○
	機関投資家の特性に応じた投資政策の策定方法について理解する。		○
	資産運用会社、ヘッジファンドの仕組みや特性について理解する。		○
	運用コンサルティング会社の役割と機能について理解する。		○
	機関投資家によるESG投資やスチュワードシップ・コードへの取組みについて理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(5) 個人投資家の資産運用</b>			
	個人投資家の意義と特性、人的資本の基本的な概念について理解する。	○	
	個人投資家のリスク許容度の決定要因やライフサイクルとの関係について理解する。	○	
	個人投資家の投資政策策定や目標リターンの設定プロセスについて理解する。	○	
	人的資本の概念とライフサイクル投資、資産配分との関連について理解する。		○
	人的資本にかかるリスク要因（所得変動、短命、長寿等）を理解する。		○
	資産形成における生命保険（死亡保険と生存年金）の仕組みと利用について理解する。		○
	ライフサイクルを踏まえた個人投資家の資産運用の基本概念や分析手法を理解する。		○
	個人投資家の属性を踏まえたポートフォリオ策定方法や投資制約要因を理解する。		○
	個人投資家にかかる税制の概要と課税対象について理解する。		○
	確定拠出年金制度（DC）の仕組みや少額投資非課税制度（NISA）の概要について理解する。		○
	リターンや資産形成に及ぼす課税の影響や投資期間との関連について理解する。		○
	個人投資家と投資信託、投信評価機関の役割と機能について理解する。		○
	シミュレーションによる資産形成予測手法について理解する。		○
	ファイナンシャル・プランナー（FP）や独立系投資アドバイザー（IFA）の役割と機能について理解する。		○
<b>(6) 国際証券投資と為替管理、資産配分</b>			
	国際証券市場（国際株式市場・国際債券市場）の仕組みと概要について理解する。		○
	国際証券ポートフォリオにおけるエクスポージャーの管理と分析手法について理解する。		○
	金融市場の状況やポートフォリオの目的・制約に即した通貨配分方法について理解する。		○
	経済・市場分析、金利要因などによるアクティブな通貨管理手法について理解する。		○
	為替先渡取引や通貨スワップを利用した為替ヘッジ戦略と最適ヘッジ比率、ヘッジコストの管理について理解する。		○
	多通貨ポートフォリオにおける為替ヘッジの利用と通貨エクスポージャー管理（通貨オーバーレイ戦略を含む）の方法について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	投資家の資産配分におけるホーム・バイアスについて理解する。		○
	エマージング市場に固有のリスクとエマージング通貨エクスポージャーの管理方法について理解する。		○
	国際資産評価モデル（IAPM）について理解する。		○
	国際資本市場の統合と分断の概念について理解する。		○
	グローバル・アセットアロケーションの理論と手法（Black=Littermanモデルなど）について理解する。		○
<b>(7) 投資パフォーマンスの測定・評価と提示</b>			
	パフォーマンスの測定・評価の意義と目的について、利用者の観点も踏まえつつ理解する。	○	
	金額加重収益率と時間加重収益率の概念と算出手法、利用方法について理解する。	○	
	投資収益率の算出基礎データに関する留意点について理解する。	○	
	パフォーマンス評価におけるベンチマークの意義やベンチマークの特性・要件などについて理解する。	○	
	ベンチマークの評価・選択とカスタム・ベンチマークの構築方法について理解する。	○	
	パフォーマンス・ユニバースを利用した評価手法について理解する。	○	
	パフォーマンスの要因分析手法の概要や利用方法を理解する。		○
	株式のファクター・モデルに基づくパフォーマンス評価・分析手法を理解する。		○
	債券ポートフォリオ・リターンにおける金利効果とアクティブ運用効果の測定方法、分析結果の解釈方法を理解する。		○
	リスク調整後パフォーマンス評価指標（シャープ・レシオ、トレーナー・レシオ、ジェンセンのアルファ、インフォメーション・レシオ等）の算出と利用方法について理解する。		○
	最大ドローダウン、ソルティノ・レシオによるヘッジファンドのパフォーマンス評価について理解する。		○
	パフォーマンス評価の目的と実務的な観点について理解する。		○
	パフォーマンス評価における定性的評価項目の利用方法と留意点について理解する。		○
	GIPS基準の目的・意義、主要な特徴について理解する。		○
	GIPS基準の構成と主要な概念を理解する。		○
	GIPS基準に基づく投資パフォーマンスの提示・報告の方法について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(8) 行動ファイナンスの意義と応用</b>			
	伝統的ファイナンス理論が依拠する期待効用理論とプロスペクト理論の違いについて理解する。		○
	期待効用理論では説明できない実際の個人の選択行動の特性について理解する。		○
	プロスペクト理論における主要な概念（参照点や損失回避、リスクに対する態度、リスク評価等）を理解する。		○
	プロスペクト理論が個人の選択行動と整合性を持つことを理解する。		○
	不確実性に関する客観確率と個人の主観確率について理解する。		○
	プロスペクト理論における価値関数、確率ウェイト付け関数、意思決定ウェイト付け関数について理解する。		○
	効率的市場仮説が必ずしも成立しない可能性と裁定の限界について理解する。		○
	行動ファイナンス理論（主観確率やヒューリスティック等）により、投資家の非合理的な行動（行動バイアス）が説明できることを理解する。		○
	投資家の非合理的な（直感的な）行動がパフォーマンスに与える影響や市場の価格形成に与える影響を理解する。		○
	伝統的ファイナンス理論による資産価格評価モデルとマーケット・アノマリーの関係について理解する。		○
	マーケット・アノマリーに対応して新たに誕生した主要な資産価格評価モデル（5ファクター・モデル等）の背景と内容について理解する。		○
<b>(9) オルタナティブ投資資産の種類、特徴と投資管理</b>			
	オルタナティブ投資と伝統的資産への投資の違いを理解する。		○
	オルタナティブ投資の概念とポートフォリオにおける活用について理解する。		○
	オルタナティブ投資の効果（リターン拡張効果とリスク低減効果）について理解する。		○
	オルタナティブ投資資産の主要な分類（不動産、プライベート・エクイティ、ヘッジファンド、コモディティ、その他）とその特性、戦略を理解する。		○
	オルタナティブ投資資産の価値評価とリターンの算出およびリスク管理手法について理解する。		○
	オルタナティブ投資のベンチマークとパフォーマンス評価手法について理解する。		○
	オルタナティブ投資にかかるマネジャー・セクションとデュー・ディリジェンスについて理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント [ポートフォリオ・マネジメント]

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	不動産投資の基本と不動産証券化市場について理解する。		○
	不動産価値評価の基本手法（DCF法など）について理解する。		○
	REIT（不動産投資信託）の仕組みと価値評価、投資手法について理解する。		○
	プライベート・エクイティ（未公開株式）の概要と特性について理解する。		○
	プライベート・エクイティ投資（ベンチャー・キャピタル、バイアウトファンドなど）の仕組みと特性、投資手法について理解する。		○
	プライベート・エクイティ・ファンドの構築と価値評価、パフォーマンス測定の方法について理解する。		○
	ヘッジファンドの主要戦略の特徴とそのリスク・リターン特性について理解する。		○
	ヘッジファンドの運用報酬とパフォーマンス評価について理解する。		○
	ファンド・オブ・ヘッジファンドの仕組みや特徴、利用方法について理解する。		○
	コモディティ投資の仕組みや目的、特徴、分類について理解する。		○
	コモディティ投資の価値評価方法やリスク・リターン特性について理解する。		○
	コモディティ指数の構築方法、指数リターンの特性について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

# 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

## ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 証券アナリストと財務分析</b>			
	企業分析における財務分析の意義を理解する。	○	
	企業会計の役割を理解する。	○	
	会計情報の限界など財務分析上での留意点を理解する。	○	
	日本の財務報告制度の特徴、企業会計を規制する法体系を理解する。	○	
	強制開示と自主開示の違いを理解する。	○	
	財務情報と非財務情報の違い、分析に利用するときの留意点を理解する。	○	
	日本の会計基準と国際財務報告基準 (IFRS)の特徴と相違点を理解する。	○	
	財務諸表監査の目的、監査報告の類型を理解する。	○	
	財務報告の質とリスクを理解する。	○	
<b>(2) 主要財務諸表と企業活動</b>			
	有価証券報告書の体系を理解する。	○	
	損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書の相互関係を理解する。	○	
	セグメント情報の特徴と財務諸表の関係を理解する。	○	
	注記事項 (税効果会計や企業結合会計など) を理解する。	○	
	損益計算書の表示区分を理解する。	○	
	包括利益とOCI (その他の包括利益) を理解する。	○	
	EPSの開示目的と計算方法を理解し、単純な資本構成での希薄化前と希薄化後のEPSを計算できる。	○	
	貸借対照表の表示区分を理解する。	○	
	純資産の構成要素を理解する。	○	
	株主資本の構成要素を理解する。	○	
	キャッシュ・フロー計算書の表示区分を理解する。	○	
	間接法によるキャッシュ・フロー計算を理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	企業利益の分配方法と株主資本等変動計算書との関係を理解する。	○	
	日本基準の単体、連結、四半期の財務諸表とIFRSの相違点を理解する。	○	
	剰余金の分配規制を理解する。	○	
<b>(3) 企業会計の仕組み</b>			
	企業会計における資本と利益の違いを理解する。	○	
	資産と収益、資産と費用の関係を理解する。	○	
	会計利益とキャッシュフローの関係、相違点を理解する。	○	
	負債の会計処理の要点を理解する。	○	
	引当金の会計処理の要点を理解する。	○	
	資本の区分とその意義、資本取引と資本の関係を理解する。	○	
	新株予約権の会計処理の要点を理解する。	○	
	会計方針の変更などによる影響を理解する。	○	
	ASBJの「概念フレームワーク」を理解する。	○	
	日本基準とIFRSの基本的な違いを理解する。	○	
<b>(4) 収益の測定</b>			
	営業循環と収益認識基準の関係を理解する。	○	
	収益認識会計基準の基本的な考え方を理解する。	○	
	有価証券の種別と保有目的による評価基準の相違を理解する。	○	
	その他有価証券評価差額金の純資産直入を理解する。	○	
	デリバティブ取引（先物、先渡、オプション、スワップ）の会計処理を理解する。		○
	デリバティブの利用とヘッジ会計の適用を理解する。		○
	収益認識について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

# 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

## ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(5) 費用の測定</b>			
	発生主義による費用の認識と測定方法を理解する。	○	
	費用収益対応の原則を理解する。	○	
	棚卸資産の範囲と、原価配分の考え方を理解する。	○	
	棚卸資産の期末評価を理解する。	○	
	有形固定資産の取得原価を理解する。	○	
	無形資産の取得原価を理解する。	○	
	減価償却の意義を理解し、減価償却額を計算できる。	○	
	繰延資産の償却や費用の繰延べ・見越しを理解する。	○	
	固定資産の減損処理を理解し、減損額を計算できる。	○	
	貸付金等の減損処理を理解し、減損額を計算できる。	○	
	ファイナンス・リース取引の要件と会計処理を理解する。	○	
	オペレーティング・リース取引の要件と会計処理を理解する。	○	
	有形固定資産の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
	無形資産の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
	引当金の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
	金融資産・負債の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
	リース取引の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
<b>(6) 労務費用の会計</b>			
	退職給付プランの種類と会計処理の概要を理解する。	○	
	退職給付費用の構成要素を理解する。	○	
	退職給付債務と貸借対照表上の負債の関係を理解する。	○	
	過去勤務費用および数理計算上の差異の会計処理を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

# 【2024年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

## ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	ストック・オプションなど株式をベースとする報酬費用の会計処理を理解する。		○
	労務費用の会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
<b>(7) 税効果会計</b>			
	会計利益と課税所得の関係、相違点を理解する。	○	
	税効果会計の仕組みを理解する。	○	
	繰延税金資産の回収可能性を理解する。	○	○
	税率変更があった場合の再計算の仕組みを理解し、財務諸表や財務指標への影響額を計算できる。		○
	その他の有価証券に係る税効果会計を理解する。		○
	税効果会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
	財務諸表における税効果会計関連項目の表示を理解する。	○	
<b>(8) 企業結合会計</b>			
	現金を対価とする企業結合（事業譲受・買収）の会計処理を理解する。	○	
	株式を対価とする企業結合の会計処理を理解する。	○	
	のれんの償却と減損の会計処理を理解する。	○	
	企業連結の範囲についての考え方を理解する。	○	
	連結会計と連結財務諸表の作成方法を理解する。	○	
	内部取引の相殺消去と未実現利益の消去を理解する。	○	
	企業結合時（支配獲得時）およびその後の持分の変動による影響を理解する。		○
	持分法の適用による影響を理解する。		○
	事業の移転と損益の認識の関係について理解する		○
	企業結合会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(9) 外貨換算会計</b>			
	外貨建取引の換算方法を理解する。	○	
	外貨建金銭債権債務の換算方法を理解する。	○	
	外貨建有価証券の換算方法を理解する。	○	
	在外支店の財務諸表項目の換算方法を理解する。	○	
	在外子会社の財務諸表項目の換算方法を理解する。	○	
	為替予約とヘッジ会計について理解する。		○
	外貨換算会計について、日本基準とIFRSの相違点を理解する。		○
<b>(10) 財務分析の基礎</b>			
	財務諸表分析の目的と手法を理解する。	○	
	資本利益率の算出方法と、その意味を理解する。	○	
	ROE、自己資本コスト、PBRの関係を理解する。	○	
	ROAを事業活動別に分析して解釈できる。	○	
	資本利益率についてデュポン・システムの各要素を計算し、その結果を分析できる。	○	
	サステイナブル成長率とROEの関係を理解する。	○	
	ROAとROEの関係を理解する。	○	
	百分率貸借対照表や百分率損益計算書の財務比率を使った分析ができる。	○	
	売上高利益率を使った分析ができる。	○	
	資本回転率を使った分析ができる。	○	
	付加価値の概念と計算方法を理解する。	○	
	付加価値による生産性の分析ができる。	○	
	貸借対照表を使って、安全性の分析ができる。	○	
	損益計算書を使って、安全性の分析ができる。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ② 財務分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	キャッシュ・フロー計算書を使って、安全性の分析ができる。	○	
	損益分岐点分析ができる。	○	
	費用構造が利益変動に与える影響を理解する。	○	
	費用合計を変動費と固定費に分解する方法を理解する。	○	
	資本構成が利益変動に与える影響を理解する。	○	
<b>(11) 財務分析の応用</b>			
	財務分析において、株主の視点と異なる債権者の視点を理解する。		○
	日本基準との相違点を踏まえ、IFRS導入初年度の財務諸表を分析できる。		○
	複雑な資本構成での希薄化前と希薄化後のEPSを計算できる。		○
	負債と資本の境界問題について理解する。		○
	セグメント情報を理解し、それを使って分析ができる。		○
	監査報告書の「監査上の主要な検討事項」から財務分析のポイントを見つけることができる。		○
	資本市場における会計情報の有用性について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ③ コーポレート・ファイナンス

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 株式会社のしくみ</b>			
	株式会社制度の誕生や変遷、特徴について理解する。	○	
	株式会社の資金調達と株式公開制度について理解する。	○	
	株式会社に関連する主要な法令の概要について理解する。	○	
	株式会社と財務諸表開示の意義について理解する。	○	
	株式会社における「所有と経営の分離」の仕組みや問題点等について理解する。	○	
	企業によるIR活動の概要について理解する。	○	
	企業経営者の報酬制度（ストックオプション等）の仕組みと課題について理解する。	○	
	株式会社の形態（事業部制や持株会社等）の種類や特徴について理解する。	○	
<b>(2) 企業の事業・競争戦略</b>			
	企業戦略とコーポレート・ファイナンスの関係について理解する。	○	
	企業の経営戦略と事業戦略の基本的な考え方について理解する。	○	
	ポジショニングアプローチと業界構造分析の主要な考え方について理解する。	○	
	経営資源アプローチの主要な考え方とそれらの違いについて理解する。	○	
	多角化と全社戦略の主要な議論について理解する。	○	
	バリューチェーン分析と企業の境界に関する議論を理解する。	○	
	SWOT分析を用いた経営戦略分析について理解する。	○	
	企業の代表的な事業戦略と価値指標や財務指標の関係について理解する。	○	
<b>(3) コーポレートガバナンス</b>			
	コーポレートガバナンスの意義やその考え方、背景を理解する。	○	
	企業活動における倫理規範の意義と確立方法について理解する。	○	
	企業と各ステークホルダーの関係について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ③ コーポレート・ファイナンス

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	インベストメント・チェーンにおけるコーポレートガバナンスの意義と効果について理解する。	○	
	エージェンシー問題とコーポレートガバナンスの関係について理解する。	○	
	上場会社の機関設計について理解する。	○	
	サステナブルファイナンスの概要を理解する。	○	
	環境 (E) 要因、社会 (S) 要因を含むサステナビリティ要素に関する論点と企業価値との関連について理解する。		○
	投資分析におけるサステナビリティ要素の評価方法や利用方法について理解する。		○
	取締役会とコーポレートガバナンスの効果について理解する。		○
	コーポレートガバナンス・コードの概要と運営上の課題について理解する。		○
<b>(4) 投資の意思決定</b>			
	投資の意思決定における基本原理とその基礎となる概念(キャッシュフロー、現在価値)を理解する。	○	
	投資の意思決定方法(NPV、IRR、収益性指標、回収期間法、会計上の収益率)を理解する。	○	
	投資から得られるキャッシュフローと減価償却方法の影響、投資評価上の注意点について理解する。	○	
	無形資産や金融資産への投資、外部性、サンクコストと機会費用について理解する。	○	
	投資の意思決定におけるインフレーションの影響を理解する。		○
	フリー・キャッシュフロー(FCF)の予測と事業価値の評価方法について理解する。		○
	FCFの予測に影響を与える外生的要因の分析手法について理解する。		○
	経済付加価値(EVA)、市場付加価値(MVA)、正味現在価値(NPV)との関係を理解する。		○
	複数の投資事業にかかる意思決定方法について理解する。		○
	リアルオプションの種類と企業経営上の意義について理解する。		○
<b>(5) 資本コストと資本構成</b>			
	加重平均資本コスト (WACC) の計算方法と意義について理解する。	○	
	資本コストと負債の節税効果について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ③ コーポレート・ファイナンス

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	最適な資本構成の決定について理解する。	○	
	負債コストの計算方法について理解する。	○	○
	株主資本コストの計算方法 (CAPM等) について理解する。	○	
	資本構成に関するモディリアーニ=ミラー (MM) 命題について理解する。		○
	資本コストと最適資本構成について理解する。		○
	情報の非対称性とエージェンシー・コストについて理解する。		○
	目標資本構成とその変動要因について理解する。		○
	資本構成の評価とその留意事項について理解する。		○
	財務レバレッジと資本コストの国際的要因について理解する。		○
<b>(6) ペイアウト政策</b>			
	株主還元 (ペイアウト) 方法の種類と株価や財務指標への影響について理解する。		○
	MM による配当無関連命題やペイアウト政策に影響する要因について理解する。		○
	ペイアウト政策のシグナリング効果について理解する。		○
	ペイアウトとエージェンシー・コストとの関係について理解する。		○
	代表的な配当政策とその特徴について理解する。		○
<b>(7) M&amp;Aと企業再編</b>			
	M&Aの背景・動機や分類方法 (統合形態等) について理解する。		○
	M&Aによるシナジー効果について理解する。		○
	M&Aが株価や財務指標に与える影響について理解する。		○
	企業合併取引の統合形態による特色等について理解する。		○
	企業買収防衛に関する論点と対策について理解する。		○
	M&Aの関連法令の概要について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ③ コーポレート・ファイナンス

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	被買収企業の買収価値評価手法について理解する。		○
	M&Aの買収企業と被買収企業の株主価値への影響について理解する。		○
	事業再編等の仕組みと特性について理解する。		○
	事業再編にかかる種々のM&A取引の概要や特色について理解する。		○
<b>(8) 企業価値評価</b>			
	フリー・キャッシュフローの意義と計算方法について理解する。	○	
	割引キャッシュフロー（DCF）法による企業価値評価について理解する。	○	○
	企業のターミナル・バリュー（継続価値）と永久成長率について理解する。	○	○
	負債がある企業について、節税効果をWACCに反映させるWACC法と、節税効果を加算するAPV法による企業価値評価を理解する。		○
	アンレバードベータとレバードベータの関係について理解する。		○
	企業価値評価におけるマルチプル法について理解する。代表的なマルチプルであるEV/EBITDAやPERとDCFファクター（資本コストと成長率）の関係について理解する。		○
	DCF法とマルチプル法の関係について理解する。		○
	企業価値評価のフレームワークにおいて、資本利益率と資本コストの関係を用いて、価値創造の条件を理解する。		○
	価値創造の条件とMVA（市場付加価値）やEVA（経済付加価値）の関係について理解する。		○
	競争優位と価値創造や財務指標の関係について理解する。		○
	財務モデルによるM&Aのシナジー効果の算出方法について理解する。		○
	海外企業の評価について理解する。とくに、キャッシュフローと資本コストの整合性に注意する。		○
	プラットフォーム企業におけるネットワーク効果について理解し、高成長企業の企業価値評価に応用する。		○
<b>(9) 企業のリスク管理と運転資本管理</b>			
	コーポレートファイナンスにおけるレバレッジの概念および企業の事業リスク、財務リスクについて理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ③ コーポレート・ファイナンス

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	事業リスクと財務リスクのレバレッジ指標、トータル・レバレッジについて理解する。	○	
	財務レバレッジと企業の純利益、ROEとの関係について理解する。	○	
	企業財務における流動性管理の方法や流動性指標による分析について理解する。	○	
	キャッシュフローと企業の運転資本管理について理解する。	○	
	キャッシュ・コンバージョン・サイクル（CCC）の概念・計算方法と利用について理解する。	○	
	企業における短期的な資金繰り（資金調達）方法や管理手法について理解する。		○
	企業のリスク管理におけるデリバティブの利用について理解する。		○
	全社的リスクマネジメント（ERM）について理解する。		○
	企業のリスク管理と企業価値との関係について理解する。		○

（注）「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

（2025年1月現在。今後、変更されることがあります。）

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ④ 市場と経済の分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 市場メカニズムと企業行動</b>			
	市場経済の分析に必要な基本用語と需要曲線・供給曲線について理解し、計算や説明ができる。	○	
	市場経済における価格メカニズムと均衡について理解し、計算や説明ができる。	○	
	市場構造と競争、消費者余剰について理解し、計算や説明ができる。	○	
	市場メカニズムの機能性と市場の失敗について理解し、計算や説明ができる。	○	
	需要曲線と消費者行動（予算制約と消費者選好）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	需要曲線（所得や価格の変化と需要量の関係、需要の価格弾力性）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	無差別曲線の特徴と最適消費の条件（効用最大化条件）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	供給曲線の見方、生産と費用の関係（収穫逓増・逓減の現象、損益分岐点や操業停止点、規模の経済・不経済）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	完全競争市場の利潤最大化条件（価格と限界収入、限界費用、利潤の関係や企業の最適生産量）、供給曲線と供給の価格弾力性を理解し、計算や説明ができる。	○	
	効率的な生産（費用最小化、技術的限界代替率）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	完全競争、寡占および独占市場の特徴や各市場の市場構造、市場集中度指標、完全競争市場の長期均衡条件と参入・退出について理解し、計算や説明ができる。	○	
	独占企業の利潤最大化条件と独占利潤（最適生産量と最適価格）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	不完全競争市場における企業の競争（寡占市場の競争、製品差別化と独占的競争、価格戦略、非価格競争）について理解し、計算や説明ができる。	○	
<b>(2) 国民所得と金利や物価との関係</b>			
	IS-LM曲線からAD曲線を導出できる。	○	
	短期のAS曲線と長期のAS曲線の考え方を理解し、計算や説明ができる。	○	
	AD-AS曲線が変動する要因と効果を理解し、計算や説明ができる。	○	
	総需要と総供給の変動による、短期的な経済や景気循環への影響を理解し、計算や説明ができる。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ④ 市場と経済の分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	長期完全雇用、需給ギャップなどの概念を理解し、計算や説明ができる。	○	
	労働市場の状況と均衡GDPの関係を理解し、計算や説明ができる。	○	
<b>(3) 国民経済計算の仕組み</b>			
	国民経済計算の体系、三面等価を理解し、計算や説明ができる。	○	
	名目GDPと実質GDPの違い、GDPデフレーターを理解し、計算や説明ができる。	○	
	貯蓄・投資バランスについて理解し、統計上の数値を使って計算や説明ができる。	○	
	GDPを寄与度により分解して経済成長の要因の分析ができる。	○	
	国際収支統計とGDP・GNIとの関係、経済活動が国際収支統計に及ぼす影響を理解し、計算や説明ができる。	○	
	産業連関表の仕組みについて理解し、表の数値を解釈や分析ができる。	○	
	財市場における総需要、総生産の決定を理解し、計算や説明ができる。	○	
	貨幣市場における貨幣需要、金利の決定を理解し、計算や説明ができる。	○	
	IS-LM分析を理解し、IS-LM図を用いて財政・金融政策の効果を説明できる。	○	
	経済統計と経済の先行き予測について理解し、計算や説明ができる。		○
<b>(4) 景気循環と経済成長とその要因</b>			
	物価水準の尺度（主要な物価指数）について理解し、計算や説明ができる。	○	
	インフレ率とフィリップス曲線について理解し、計算や説明ができる。	○	
	インフレ・デフレの社会的コストについて理解し、計算や説明ができる。	○	
	景気循環、景気循環の指標について理解し、計算や説明ができる。	○	
	景気循環の主要な理論を理解し、計算や説明ができる。	○	
	景気循環が失業率に与える影響について理解し、計算や説明ができる。	○	
	長期のマクロ経済モデル（生産関数）について理解し、計算や説明ができる。		○
	ソロー＝スワンモデルについて理解し、計算や説明ができる。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ④ 市場と経済の分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	成長会計について理解し、計算や説明ができる。		○
	外生的ショックと経済成長について理解し、計算や説明ができる。		○
	さまざまな経済成長モデル（古典派経済成長モデル、AKモデル、内生的技術進歩モデル）について理解し、計算や説明ができる。		○
	長期の資本市場における投資と資金需要、貯蓄と資金供給について理解し、計算や説明ができる。		○
	長期の資本市場における完全な資本市場の理論および資本市場の機能不全の決定要因について理解し、計算や説明ができる。		○
<b>(5) 金融・資本市場とマネー</b>			
	マネーや通貨指標の定義について理解し、説明ができる。	○	
	マネースtockとマネタリーベースの関係性について理解し、計算や説明ができる。	○	
	貨幣需要、貨幣数量説、フィッシャー方程式など貨幣関連の主要な理論を理解し、計算や説明ができる。	○	
	金融取引と金融機関の役割について理解し、説明ができる。	○	
	資金循環から見た日本の金融構造と日本の短期金融市場の特徴を理解し、説明ができる。	○	
<b>(6) 金融政策と財政政策</b>			
	中央銀行の組織や役割、政府との関係について理解し、説明ができる。	○	
	金融政策の目標、政策運営、政策手段について理解し、説明ができる。	○	
	金融政策と財政政策の違いを理解し、説明ができる。	○	
	金融政策の効果、効果波及経路、限界について理解し、説明ができる。	○	
	財政政策の役割・目的について理解し、説明ができる。	○	
	財政政策の効果や限界について理解し、計算（財政支出乗数など）や説明ができる。	○	
	財政政策（政府支出、国債発行、政府債務のGDP比率）が資本市場に及ぼす影響について理解し、計算や説明ができる。		○
	金融政策が総生産やインフレ率に及ぼす中長期的効果について理解し、計算や説明ができる。		○
	中央銀行の政策をテイラールールを使って予想できる。		○
	GDP統計から景気循環について理解し、計算や説明ができる。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ④ 市場と経済の分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	金融政策と財政政策のポリシーミックスについて理解し、計算や説明ができる。		○
<b>(7) 国際貿易と世界経済</b>			
	比較優位と絶対優位の違いを理解し、計算や説明ができる。	○	
	比較優位を生み出す要因を理解し、計算や説明ができる。	○	
	貿易の利益を理解し、計算や説明ができる。	○	
	関税政策の影響を理解し、計算や説明ができる。	○	
	為替レートや賃金の変化と比較優位の関係を理解し、計算や説明ができる。		○
	様々な非関税措置の影響を理解し、説明ができる。		○
	貿易政策による保護が続く理由を理解し、説明ができる。		○
<b>(8) 国際資本移動と外国為替市場</b>			
	国際収支統計について理解し、分析や説明ができる。	○	
	国際収支と為替レートの関係について理解し、計算や説明ができる。	○	
	名目と実質為替レート、2 国間と実効為替レート、直物と先渡為替レートの違いについて理解し、計算や説明ができる。	○	
	外国為替相場制度や外国為替市場について理解し、説明ができる。	○	
	購買力平価について理解し、計算や説明ができる。	○	
	カバーなし金利平価とカバー付き金利平価について理解し、計算や説明ができる。	○	
	マンデル＝フレミングモデルについて理解し、説明ができる。		○
	金融政策と財政政策が、為替レートに及ぼす影響について理解し、計算や説明ができる。		○
	資本規制の目的や有効性について理解し、説明ができる。		○
	為替介入の仕組みや有効性と不胎化と非不胎化の違い理解し、説明ができる。		○
	キャリートレードの仕組みについて理解し、得られる利益の計算や説明ができる。		○
	国際金融危機の発生メカニズムと政策対応について理解し、説明ができる。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ④ 市場と経済の分析

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(9) 産業政策と市場規制</b>			
	市場メカニズムの限界と外部性について理解し、計算（余剰など外部性の影響）や説明ができる。		○
	市場競争と競争政策について理解し、説明ができる。		○
	市場取引における不公正な取引方法について理解し、説明ができる。		○
	日本の経済制度について理解し、説明ができる。		○
	経済制度や規制の導入のための費用・便益分析について理解し、計算や説明ができる。		○
	経済制度が及ぼす影響について理解し、計算や説明ができる。		○
	株式会社に関する制度と資本市場について理解し、説明ができる。		○
	情報開示制度と資本市場について理解し、説明ができる。		○
	金融取引に関する制度について理解し、説明ができる。		○
<b>(10) 市場の分析・予測と経済的要因</b>			
	計量経済モデルによる景気変動分析ができる。		○
	経済成長の計量経済モデルによるトレンド分析ができる。		○
	計量経済モデルに基づくマクロ経済予測と経済指標について理解し、計算や説明ができる。		○
	計量経済モデルに基づき、個別の資産クラスの特徴を踏まえたアセット・リターン予測ができる。		○
	金融危機とリスクの計量経済分析について理解し、計算や説明ができる。		○
	資本市場における予測の役割とフレームワークについて理解し、説明ができる。		○
	予測モデルの種類と手法について理解し、計算や説明ができる。		○
	マクロ経済指標の相互関係について理解し、分析ができる。		○
	為替レートの予測手法について理解し、計算や説明ができる。		○
	サーベイ（市場調査）等の利用について理解し、計算や説明ができる。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) お金の時間価値</b>			
	ファイナンスにおける金利の意義について理解する。	○	
	金利水準の決定要因について理解する。	○	
	複利計算について理解し、実効利率の計算ができる。	○	
	お金の時間価値の概念を理解する。	○	
	代表的な金融商品の現在価値をキャッシュフローから計算できる。	○	
<b>(2) リターン、利回り</b>			
	正味現在価値 (NPV) や内部収益率 (IRR) の計算手法と内部収益率法の限界について理解する。	○	
	所有期間利回り (トータルリターン) の計算手法について理解する。	○	
	ポートフォリオの金額加重収益率と時間加重収益率の計算ができる。	○	
	国債などの代表的な金融商品の所有期間利回り、実効利回り、市場レート of 計算ができる。	○	
	パーイールド、スポットレート、フォワードレートの利回り曲線と割引債価格 (ディスカウントファクター) の期間構造を理解し、利回りなどの値を相互に換算できる。	○	
<b>(3) 統計の基礎</b>			
	統計量の基礎を理解しデータの代表値の計算ができる。	○	
	分位数について理解しデータから計算ができる。	○	
	データの分布の散らばりを表す統計量について理解し計算ができる。	○	
	正規分布の基本的な性質やデータの分布の歪度と尖度について理解する。	○	
<b>(4) 確率変数</b>			
	確率についての基本的な概念や重要な性質について理解する	○	
	確率の乗法定理、加法定理、全確率の定理について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	結合確率や条件付き確率、独立について理解し、簡単な事例で計算ができる。	○	
	確率変数の期待値や標準偏差、相関係数が計算でき、ポートフォリオに応用できる。	○	
	確率変数の条件付き期待値についてポートフォリオに応用できる。	○	
	確率変数が2つある場合の確率分布について理解する。	○	
	ベイズの定理について理解し、簡単な事例で事前確率から事後確率の計算ができる。	○	
<b>(5) 確率分布</b>			
	離散型の確率変数の確率分布とその累積分布について理解する。	○	
	累積分布から確率を計算する方法について理解する。	○	
	二項分布について理解し、二項ツリーでの資産価格の簡単なモデル化ができる。	○	
	連続型の確率変数の確率密度関数と累積分布関数について理解する。	○	
	累積分布関数から確率を計算する方法について理解する。	○	
	正規分布と標準正規分布の確率密度関数と累積分布関数について理解する。	○	
	正規分布に従う確率変数の標準化について理解し、標準正規分布表で確率が求められる。	○	
	対数正規分布について理解し、ファイナンスへの応用について理解する。	○	
	ショートフォール確率やVaR (Value at Risk) について理解する。	○	
	多変量の正規分布について理解する。	○	
<b>(6) 推定と検定</b>			
	推計統計について基本的な概念について理解する。	○	
	標本抽出の方法や標本誤差について理解する。	○	
	データの分類基準（時系列、クロスセクション）について理解する。	○	
	標本の平均と分散、標準偏差について計算できる。	○	
	大数の法則と中心極限定理について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	統計的推定について理解し、推定量の不偏性、一致性、有効性について理解する。	○	
	母平均の区間推定について理解し、標本分布の統計量から標準正規分布や t 分布を用いて母平均の区間推定ができる。	○	
	仮説検定の方法と手順を理解し、片側検定と両側検定について、設定すべき仮説や有意水準と棄却域との関係を理解する。	○	
	p値について理解し仮説検定に応用できる。	○	
	仮説検定における第一種過誤と有意水準、第二種の過誤と検定力について理解する。	○	
	正規母集団の母平均の検定方法について理解する。	○	
	正規母集団の母分散の検定方法について理解する。	○	
	ノンパラメトリック検定の概要について理解する。	○	
<b>(7) 回帰分析 (単回帰)</b>			
	散布図による標本の分析について理解する。	○	
	標本の相関係数を計算できる。	○	
	単回帰分析について理解し、回帰結果を解釈できる。	○	
	最小二乗法について理解し、推定された単回帰直線の説明力や限界について理解する。	○	
	単回帰分析での信頼区間や予測区間について理解する。	○	
	無相関検定について理解する。	○	
	分散分析と単回帰への適用について理解する。	○	
	単回帰における仮説検定について理解する。	○	
<b>(8) 微分の基礎</b>			
	微分の定義と表記の仕方、曲線の傾きとの関係について理解する。	○	
	代表的な関数の微分形について理解する。	○	
	微分の演算法則（関数の和、積、商や合成関数）を理解し計算できる。	○	
	2階微分の定義と表記の仕方、関数の曲率との関係について理解する。	○	

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	テーラー展開について理解し簡単な関数に応用できる。指数関数のマクローリン展開を使った応用ができる。	○	
	多変数関数の微分、偏微分とその計算方法と応用例について理解する。	○	
<b>(9) 最適化手法</b>			
	数理最適化と代表的な数理最適化モデルについて理解する。	○	
	線形計画問題の標準的定式化と解法の基礎について理解する。	○	
	線形計画問題の代表的な解法について理解する。	○	
	制約条件のない非線形最適化問題の最適性条件について理解する。	○	
	ラグランジュの未定乗数法による解法について理解する。	○	
	制約条件付き非線形最適化問題の最適性条件について理解する。	○	
<b>(10) ベクトルと行列</b>			
	ベクトルの定義と表現（表記）について理解する。		○
	ベクトルの内積の計算、長さの計算への応用、直交関係の判定について理解する。		○
	行列の定義と数理モデルの行列とベクトルでの表現（表記）について理解する。		○
	行列同士の加算・減算および積算の表記について理解する。		○
	行列式と逆行列での行列表現の数理モデルの解法を表記できる。		○
	2×2行列の固有方程式から固有値や固有ベクトルを計算できる。		○
	固有ベクトルを使った2×2行の対称行列の対角化ができる。		○
	2×2の対称行列のスペクトル分解について理解する。		○
	複数の確率変数の期待値、分散、共分散についてベクトルの2次形式で表記できる。		○
	関数を成分とするベクトルの微分表記、簡単な関数の計算ができる。		○
	ベクトルや行列のポートフォリオマネジメントへの応用について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(11) 回帰分析（重回帰）</b>			
	重回帰モデルの概要について理解する。		○
	重回帰モデルを推定しそのモデルについて評価できる。		○
	重回帰分析における仮説検定について理解する。		○
	重回帰モデルを用いて説明変数から被説明変数の予測ができる。		○
	重回帰モデルのF値による評価について理解する。		○
	重回帰分析における自由度調整済み決定係数について理解する。		○
	重回帰モデルの説明力に影響する要因について理解する。		○
	不均一分散や系列相関について理解する。		○
	多重共線性について理解する。		○
	ダミー変数の利用法について理解する。		○
	一般化線形モデルの概要について理解する。		○
	重回帰分析によるマルチファクター・モデルの係数計算方法を理解し、モデルの評価ができる。		○
<b>(12) 多変量解析</b>			
	2変数での主成分合成の原理を理解し具体的な計算ができる。		○
	主成分分析における固有値と寄与率の関係について理解する。		○
	主成分分析の共分散行列での定式化による多変数への一般化について理解する。		○
	因子分析の原理について理解する。		○
	因子負荷行列の推定法について理解する。		○
	判別分析とクラスター分析の手法の概要を理解する。		○
<b>(13) 時系列分析</b>			
	時系列データのトレンドの推定について理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑤ 数量分析と確率・統計

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
	時系列データの定常性について理解する。		○
	自己回帰モデルによる予測について計算し評価できる。		○
	単位根過程の概要とランダムウォークの特徴について理解する。		○
	時系列データの構造変化や季節調整について理解する。		○
	ボラティリティ変動モデルの概要について理解する。		○
	非定常時系列モデルにおける見せかけの回帰や共和分について理解する。		○
	時系列モデルを証券分析や市場分析に応用できる。		○
<b>(14) シミュレーション手法</b>			
	シミュレーション、特に、モンテカルロシミュレーションの基本的な仕組みや手順について理解する。		○
	シミュレーションを行う各変数の確率分布を定める方法について理解する。		○
	意思決定にシミュレーションを用いる場合の長所と短所（制約）について理解する。		○
	リスク評価でのシミュレーション手法の留意点について理解する。		○
	意思決定にシミュレーションを用いる場合のシナリオ分析と決定木との違いについて理解する。		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)

## 【2024 年度】CMA 資格の取得に求められる主要学習事項と学習ポイント

### ⑥ 職業倫理・行為基準

主要学習事項	学習ポイント	1次	2次
<b>(1) 証券アナリスト職業行為基準の意義</b>			
	証券アナリスト職業行為基準の概要と目的・意義について理解し、説明ができる。	○	
	CMAに求められる信任義務と、それを支える忠実義務や注意義務の関係について理解し、説明ができる。	○	
	CMAの業務を取り巻く様々な規制（関係法令、協会定款・規則など）について理解し、説明ができる。	○	
	CMAに求められる忠実義務について理解し、説明ができる。	○	
<b>(2) 職業的専門家である受任者としての信任義務の重要性</b>			
	CMAの忠実義務と利益相反の防止（株式等の実質保有や自己取引による利益相反など）について理解し、説明ができる。	○	
	CMAに求められる注意義務について理解し、説明ができる。	○	
	CMAの注意義務と、投資情報の提供や投資の適合性の確認の関係について理解し、説明ができる。	○	
<b>(3) 重要な行為基準の理解と具体的な業務における適切な行動と判断</b>			
	投資情報の提供等に関する職業行為基準の意義について理解し、説明ができる。		○
	投資の適合性の確認等に関する職業行為基準の意義について理解し、説明ができる。		○
	不実表示に係る禁止等に関する職業行為基準の意義について理解し、説明ができる。		○
	利益相反の防止および開示等に関する職業行為基準の意義について理解し、説明ができる。		○
	未公開の重要な情報の利用の禁止等に関する職業行為基準の意義について理解し、説明ができる。		○
	投資情報の提供において重要な職業行為基準について理解し、説明ができる。・・主にアナリスト業務		○
	投資推奨において重要な職業行為基準について理解し、説明ができる。・・主に金融商品の営業業務		○
	投資管理において重要な職業行為基準について理解し、説明ができる。・・主に資産運用業務		○

(注) 「1次」「2次」欄の○印はそれぞれ、第1次、第2次レベル講座テキストの対象であることを示します。

(2025年1月現在。今後、変更されることがあります。)